

人権啓発センター だより

平成26年11月
No.11

(公財) 高知県人権啓発センター



雑感

ハザードランプ「ア・リ・ガ・ト・ウ」

はりまや橋付近で車を運転中に、横を走っていた車が車線変更をして、私の車の前に出た時に、その車のハザードランプ（非常点滅表示灯）をチカチカと点滅させていました。それは「サンキューハザード」と言って、車線変更や割り込ませてくれて「ありがとう」の感謝の気持ちを込めて、進路を譲ってくれた車に対して合図をすることだそうです。

かつて、「クラクション殺人」や「車を運転すると『人が変わる』」などと殺伐としたドライバーのマナーが言われていたことがありましたが、今は、ほのぼのとしたドライバーマナーを感じました。

車のハザードランプ「ア・リ・ガ・ト・ウ」のチカチカの点滅合図。とてもうれしくなりました。運転手同士がお互いに思いやりをもって「どうぞ」「ありがとう」「どういたしまして」という譲り合いの気持ちをもって車を運転すれば交通事故も少なくなるのではないのでしょうか。（しかし、点滅のスイッチを入れる時の事故や、点滅は道路交通法的にはどうなのかな・・・？）

(研修啓発課 山本)

人権あれこれ

先日の研修会で高齢者疑似体験のプログラムを実施した。「レジでお金を出すのに時間がかかる人も、優しく待ってあげたいと思う」実施後、参加者の感想である。体験したからこそその気づきであり、「身をもって感じた」ことは深い認識を得ることができると思う。

昨层高知県から報告があった人権に関する県民意識調査の中で、関心のある人権問題の第一位は「高齢者の人権」であった。10年前の調査では四位にすぎなかったのに、

高齢者の増加が世の中の人々の意識を変えつつある。

日本の高齢化率は現在世界の第一位だということに、高齢化率はまだまだ右肩上がり。46年後もまだ上がり続けるという驚くべき国の推計がある。国の年間医療費は毎年1兆円ずつ増える勢いで、現在38兆円という途方もない数字になっている。「高齢者の人権」を「身をもって感じて」いかなければならないのは、今とこれからの時代である。

(研修講師 山下)



じんけんライブラリー

一押し本

「せかいのひとびと」

著／ピーター・スピーアー
評論社 (1,620円＋税)

世界には色々な人がいて、多様な価値観があって、それぞれの歴史がある。お互いにその違いや価値観を認め合いながら暮らしていくことが、豊かな社会につながっていくということを知りやすく教えてくれる絵本です。何度見ても飽きない素敵な本です。

(事務局長 福田)



新しく購入した本を紹介します

タイトル	著者／出版社	内容
記者たちは海に向かった 津波と放射能と福島民友新聞	門田 隆将 ／角川書店	大津波の最前線で取材していた24歳の地元紙記者は、なぜ死んだのか。そして、その死は、なぜ仲間たちに負い目とトラウマを残したのか。「福島民友新聞」を舞台に繰り広げられた壮絶な執念と葛藤のドラマ。
性犯罪被害にあうということ	小林 美佳 ／朝日新聞出版	加害者への恐怖と憎しみ、被害者への偏見、変わってしまった人間関係。孤独の中で泣きながら、携帯電話を使って自分の気持ちを打ち込んだ。実名と顔を出し、被害者の心境をありのままに記した勇気のノンフィクション。
わたしをみつけて	中脇 初枝 ／ポプラ社	施設で育ち、今は准看護師として働く弥生は、問題がある医師にも異議は唱えない。なぜならやっと得た居場所を失いたくないから。家族問題に加え、医療現場の問題にも鋭く切り込んだ書き下ろし長編。
ニトロちゃん みんなと違う、発達障害の私	沖田 ×華 ／光文社	アスペルガーなどの「発達障害」の存在が、まだあまり知られていなかった時代。協調性のない行動から、問題児というレッテルを貼られてしまうニトロちゃん。著者自身の体験をもとに、苛酷な学校生活を涙と怒りと笑いで描くコミックエッセイ。



事業報告

ピックアップ

平成26年度人権啓発研修ハートフルセミナー第2講座を開講しました

内田 美智子さんを講師にお迎えして、ハートフルセミナー第2講座「食卓から始まる『生教育』」を、8月23日（土）に開講しました。

内田さんは、加工食品や菓子類ばかりが並んでいる家庭の食卓の現状を例に挙げて、手料理による食卓の豊かさが子どもたちの心身を健全に育てていくことを訴えられました。

「食べることは生きること」「『子育て』ではなく『人間育て』である」「命がけて産んだ命は命がけて育てましょう」等、たくさんのメッセージを届けてくれました。



(企画啓発課 谷脇)

ピックアップ

テレビ・ラジオで人権啓発スポットコマーシャルを放送しています

マスメディアを活用した人権啓発として、子どもから高齢者までの幅広い世代が視聴するテレビとラジオで人権啓発スポットコマーシャルを放送しています。

今年は「認知症」「外国人」「児童虐待」「ドメスティックバイオレンス」「HIV感染者」「インターネット・スマホ等利用のルール・マナー」というテーマで放送しています。

すでに放送が終了したものもありますが、これから放送されるテーマとスケジュールをご紹介します。

《ラジオ》

放送局：RKC高知、エフエム高知

- 11月14日～11月20日 児童虐待「通告を、ためらわないで」

《テレビ》

放送局：RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテレビ

- 11月19日～11月25日 ドメスティックバイオレンス「自分を、守るために。」
- 11月25日～12月 1日 HIV感染者「数字で覚えるHIVのコト」
- 12月 4日～12月10日 インターネット・スマホ等利用のルール・マナー「つながり」



(企画啓発課 國松)



Information お知らせ

イベント紹介

第18回じんけんふれあいフェスタを開催します

今年も高知市中央公園でじんけんふれあいフェスタを開催します。
子どもから高齢者までが楽しめる催しが盛りだくさんです。ぜひ、会場へお越しください。
*詳しい内容は、当センターのホームページに掲載しています。

●日 時：平成26年12月7日（日）9:30～15:30
※雨天決行

●場 所：高知市中央公園（高知市帯屋町1-11）

●ステージプログラム ※手話通訳あり

9:30～オープニングセレモニー

潮幼稚園学園マーチングバンド

10:00～ルアナと楽しい仲間たち フラダンスショー

10:30～それいけ！アンパンマン ショー

11:30～子どもじんけんミュージカル

13:00～心を持ったロボットのぞみパフォーマンスショー

13:40～それいけ！アンパンマン ショー

14:40～南佳孝コンサート

その他、人権啓発コーナー、子ども広場、マジックショー、ご当地ぐる麺フェア、飲食コーナー、スタンプクイズラリー、来場者プレゼントもあります！



(企画啓発課 國松)



じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で
行っていますのでぜひご利用ください

■ 図書

1人5冊以内で、期間は2週間以内です。

■ ビデオ・DVD

1人2巻以内で、期間は2週間以内です。

※ 直接来所できない場合は送付もいたします。
(送料は利用者のご負担となります)



ホール案内

各種研修会等にご利用ください

■ 収容人員

270名（机を使用する場合は180名）

■ 設備

放送設備、スクリーン、冷暖房

■ その他

使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

HP : http://www.kochi-jinken.or.jp